

お茶の間交信



～ ありがとう♪「お茶の間交信」～

昭和55年創刊の「お茶の間交信」は今回が最終号となります。今後、子育て情報については“くるんと子育て支援センター”が情報を発信してくれることになりました。最後の発行にあたり、編集委員の皆さんから「お茶の間交信」への思いを寄せていただきました。読者の皆様への感謝を込めて私たちから最後のお便りです。どうぞご覧ください。



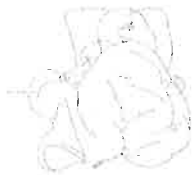
「お茶の間交信」発行が終了です

平吹 京子(保健師)

「お茶の間交信」の発行は、昭和55年から始まったという。すごい！今年度で何と43年間。昭和、平成、令和と3元号を経て今にあるんですね。

私は平成19年度から編集委員に携わって17年間、長井市に転入した翌年からのことでした。思い起こせば、何しろ編集会議での討論は楽しかった。メンバー全員が、長井市の子育て支援をより良いものにしようと、ママ目線での思いに編集委員としての専門性を加味して、口角泡を飛ばし議論しました。その間、社会情勢や子育て環境も大きく変化し、子どもたちもママたちも大いにその流れに関わらざるを得ない中、私たちは地道にそして建設的であることを目指しました。地区回覧により祖父母らの共感も確認できました。

今後、その足跡の先につながる子育て支援情報が充実したものになることを期待しています。



「お茶の間交信」への思い

中川 純子(星の子保育園園長)

昭和55年から続いた「お茶の間交信」は、多種多様な内容で様々な人の手によって作られてきました。内容もとても身近な内容から、子どもの育児、離乳食、食事のこと、行事のことなど、とてもわかりやすく書かれてありました。

私自身も数年間「お茶の間交信」に関わらせていただき、毎回「テーマ」を決めることから始まり、「今伝えたいこと」を話し合いながら編集しました。このようにして出来上がった「お茶の間交信」には、お父さんお母さん方はもちろん、おじいちゃんやおばあちゃんからも「返信」が届いた時には、いろいろな方に読んでいただいているととても嬉しく思いました。今の子育ては、どうしてもお父さんお母さんだけになりがちですが、地域で子どもを見守る「地域で子育て」ができるようになれば、色々な人との繋がりができ、もっと子育てが楽しくなると思います。お父さんお母さん以外の「返信」は、「お茶の間交信」がそこに繋がってきていることを感じてとても嬉しいものでした。

「お茶の間交信」は終わりますが、今後も地域の方々に身近な情報紙を発信されることを願っています。長い間お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

編集委員として

菊地 美紀(西根児童センター園長)

「お茶の間交信」の編集委員として4年間という長い間、参加させていただきました。4年間を振り返ると、私にとってとても学びある委員会でした。「お茶の間交信のあゆみ」を見ると、昭和55年からの長い歴史があり、その時々合ったテーマに沿って編集されていることがわかります。中央コミセンの方や編集委員の皆さまと共にテーマについて様々な意見を交換したり、また、知らない情報を教えあったりして、「なるほどな～」と思うことがたくさんありました。編集委員会に携わってこれたことに感謝したいと思います。

また、これまでたくさんのテーマがありました。時代が巡っても子育てに関する悩みはいつも中心にあり尽きないように思います。「お茶の間交信」が、その時々悩んでいる方たちの役に立ち、毎日の忙しさの中にも“ほっ”と息抜きができるもの、ちょっとした“目からウロコ!”的なものになっていたのならうれしく思います。長い間お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。



お茶の間交信編集委員を通して

鈴木 亮子(家庭的保育ルームひよっこ施設長)

私は、お茶の間交信編集委員として3年間携わらせていただきました。

編集委員会では、保育、子育て支援、保健師等の様々な分野の委員間で情報交換をしながら、今の子育て世代が必要としていることは何か、ひざを突き合わせて話し合いました。その内容は、健康、食事、絵本、行事や文化、遊び等、多岐にわたりました。その中で、自分が知らなかったことを知ることができたり、共通の悩みや問題意識を共有できたりしたことは大きな収穫でした。また、その道のプロに原稿をお願いした時は、出来上がった交信を読むのも楽しみでした。

この交信が、長井の必要としている方に届くことを願いつつ、園や地区ごとに委員みんなで分ける作業も楽しかったです。読者からの返信もありがたかったです。

編集委員の方々との交流の場、学びの場であるとともに、地域との懸け橋の場でもありました。貴重な経験をありがとうございました。



「お茶の間交信」に思うこと

樋口 藍(認定こども園小桜幼稚園)

「お茶の間交信」の編集委員を務めさせていただいてから3年の月日が過ぎようとしています。3年という長いように感じられますが、長年編集委員をされてこられた皆さんから比べるとまだまだ未熟です。ですので、私は「お茶の間交信」の“一読者として”書かせていただきたいと思います。

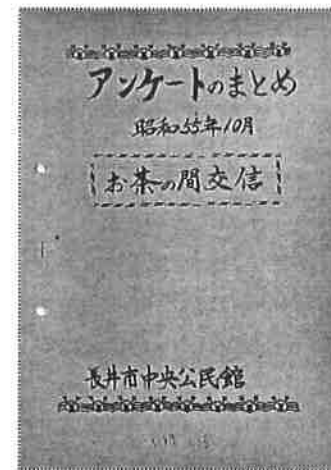
「お茶の間交信」との出会いは娘を出産した頃です。もっと以前から「お茶の間交信」はあったのですが、自分が母親となって初めて興味を持って読ませていただくようになりました。離乳食のこと、おむつ外しのこと、時には小さい子にお勧めの本。幅広いジャンルから子育て真っ最中のママにとって知りたい情報が

掲載されていて、見るのが楽しみだったことが思い出されます。本には載っていない、でも知りたかった情報に安心したり、考えさせられたり…。「お茶の間交信」を読んで母親として成長させてもらったように思います。

そんな「お茶の間交信」に携わることが出来て幸せでした。3年間ありがとうございました。



記念すべき第1号。当初は冊子型式でした。



生活、食事、入園や入学、季節の楽しみ、保育施設の紹介…子育てに関する様々なことを特集しました。



3年間の編集委員を通して

江袋 芳理(はなぞの保育園)

編集委員をさせていただいて3年になります。以前は何気なく読んでいましたが、委員になり「お茶の間交信」を発行する大変さを知りました。毎回、長井市の子育てをする家族の方々に届くようにと、子育てにかかわる様々な職種の委員が掲載内容を熟考しています。この掲載内容を決めることこそが、私にとって一番勉強になったことでした。内容を考えるにあたり、ご家族が抱えている子育ての悩みや子育ての最新情報など、広い視野をもって様々な角度から考えることの大切さを編集委員会のたびに痛感しました。何度か原稿を書かせていただいたことも良い経験になりました。

43年という歴史を経て、この「お茶の間交信」が形を変えることは寂しいことですが、子育てをする皆様にとって少しでも気づきのある場所、ホッとできる場所であったのなら嬉しく思います。

短い間でしたが、「お茶の間交信」に関わることができて大変光栄に思います。ありがとうございました。

折 り 線

料金受取人払郵便

長井町郵便

614

差出有効期限
令和7年5月
31日まで

〒993-8790

長井市屋城町6番53号
長井市中央コミュニケーションセンター
(交流センターふらり内)
お茶の間交信 行



9938790

折 り 線

「お茶の間交信」の終わりに寄せて

土屋 清美(やまがた育児サークルランド)

10年以上お茶の間交信編集委員会に参加させていただいています。委員になったばかりの頃の私は、園児2人の母で、子育て真っただ中。こども園や保育園の先生方の話題はいつも興味深いものでした。こちらからの話題提供が一方的にならないよう、いつもお母さんたちの目線を大切に、お母さんたちの代弁者のつもりで参加してきました。

この数年で社会は大きく変わり、子育て家庭を取り巻く環境も大きく変化しました。どんな時代になっても子育ては悩ましく、だからこそ伝えたいこともたくさんありました。ピンク色のお茶の間交信は、子育て家庭へのラブレターだと思いお手伝いしてきました。

これからは、どんな形でこの気持ちをお届けしようか… いつも応援していますね。



あっという間の2年間でした

渡辺比呂子(保健師、ナーシングドゥーラ)

昭和55年から長きに渡り、「お茶の間交信」と、ささえてくださった地域のみなさま、育児の先輩方に感謝申し上げます。

生活様式や家族形態が変化する中で、育児に関する情報も、必要な情報がインターネットですぐに調べることのできる時世となりました。とはいえ、それぞれが感じていることや疑問に思うことは違い、その意見に関心を寄せることから始まるのが、「お茶の間交信」の編集委員会でした。いろんな話題が飛び交い、テーマがすぐ決まることもあれば、脇道にそれた話が重要なポイントだったと気づいたり、長井で育つ子どもたちが、健康に健やかに育ってほしいという思いにあふれた編集会議でした。

夕方の忙しい時間帯には後回しになっても、ちょっと一息ついた時にふいに目に入ったピンク色の「お茶の間交信」が、何か一つでもお役に立てていたら嬉しいです。これまでありがとうございました。

折 り 線

